名和っ子 学校から

達人ってすごい！
～笠耐先生と学んだ『未来のエネルギー』～

光徳小学校

▶将来、この中から「科学の達人」が誕生するかも…？

『科学の達人』といわれる笠耐先生は、元上智大学理工学部の助教授で、物理教育学会の編集委員でもあります。

光徳小学校6年生は、その有名な笠先生の特別授業を受けることができました。「さすが大学の先生だ。授業がよくわかった」「実験が楽しかった」「アイスランドの自然や漁業にも興味がわいてきた。行ってみたいな」「地球の中の温度が3千度もあるなんてすごい」など興奮さめやらぬ15人でした。

3月12日金曜日、午前11時から1時間半、科学教育の達人は「未来のエネルギー」というテーマで特別授業をおこないました。これは、県の『その道の達人』派遣事業」として企画されました。いろんな達人ある中で、担任の坂井教諭は理科主任のためなのか、科学の達人笠耐先生に要請をしました。

自己紹介のあと、「化石エネルギー（石油・石炭）や原子力の素のウランもなくなってしまうかもしれないのよ。地球環境を考え、永久的なエネルギーをみなさんは考えないと21世紀は生きられないと思うの」と大きな問題を提起されました。6年生の顔が緊張します。太陽エネルギーの説明に驚き、地熱のすごさに感動し、火と水の国アイスランドの滝の利用と水力発電、地熱利用と温水利用、氷の国でパイナップル収穫の不思議さに真剣そのもの。

太陽電池や風力発電の実験では、それぞれの発電と出力変数（風や光が強ければ発電量は大きい）の関係について結果をまとめ、ポスターを作製し、それぞれの長所短所について発表しあいました。

日本人は、世界平均より多くのエネルギーを消費しています。しかも輸入に8割頼ったエネルギーです。安い価格で作り出すエネルギーを考え出すことが急務です。

太陽が地球を1時間照らすだけで、地球上の人々が1年間暮らすことができるエネルギー。地球環境を崩さない水力や風力発電の見直しや、マグマに代表される地熱・温水の利用をすすめる事が大切だということなどがしっかり理解できました。さすが科学の達人、児童の心の中に科学の芽が大きくふくらみました。

▶科学の不思議さに触れ、子どもたちの表情は真剣そのもの

74名が巣立つ
第57回卒業証書授与式

名和中学校

▲卒業証書を手に、3年生はそれぞれの道へと巣立っていきました

3月9日（火）午前10時から、名和町長をはじめ27名の来賓、約80名の保護者の列席により、第57回卒業証書授与式を挙行しました。校舎周辺の桜のつぼみが例年より早く膨らみ始めるなか、女子40名、男子34名、計74名の卒業生が巣立ちました。

本校では例年、卒業生・来賓・保護者・教職員・在校生が中央を向く形の卒業式をおこなっています。一人ひとりの卒業生の顔がよく見えて良かったという声を聞いています。

学校長式辞では、根平雄一郎校長から「『忠恕』の心をもって何事にもチャレンジしてほしい」というはなむけの言葉が卒業生に贈られました。「忠」とは、自分に正直で誠をつくし偽らないことで、「恕」とは、相手の立場に立って、考え行動するということです。さらに、雨の日も風の日も3年間無欠席で登校した12名の卒業生の名前が読み上げられて紹介され、その努力が称えられました。

在校生を代表して木谷隆志君が、「先輩たちが残してくださった足跡を一歩一歩踏みしめながら、今度は私たちがこの名和中学校を担っていきます。この学校で代々受け継がれてきた素晴らしい伝統を絶やさぬよう、私たち在校生で守り育んでいくことをお約束します」と贈る言葉を結びました。

それに応えて、卒業生を代表して大﨑恵さんが「私たちは、新しい生活へ一歩進んで行きます。不安はありますが、この名和中学校での3年間の思い出や学んだことをしっかり胸に刻み、頑張っていきたいと思います。お世話になった先生方、保護者の皆様、友達と一緒に過ごした日々、楽しいことも悲しいことも共に分かち合った3年間を一生忘れません。そして名和中学校の卒業生であることを心から誇りに思います」と答辞を述べました。

式次第の最後、全校合唱では、卒業生が「旅立ちの日に」を合唱し、最後に全員で「この地球のどこかで」を大合唱して、お互いの別れを惜しみました。

◀卒業生を代表して、大﨑恵さんが答辞を述べました